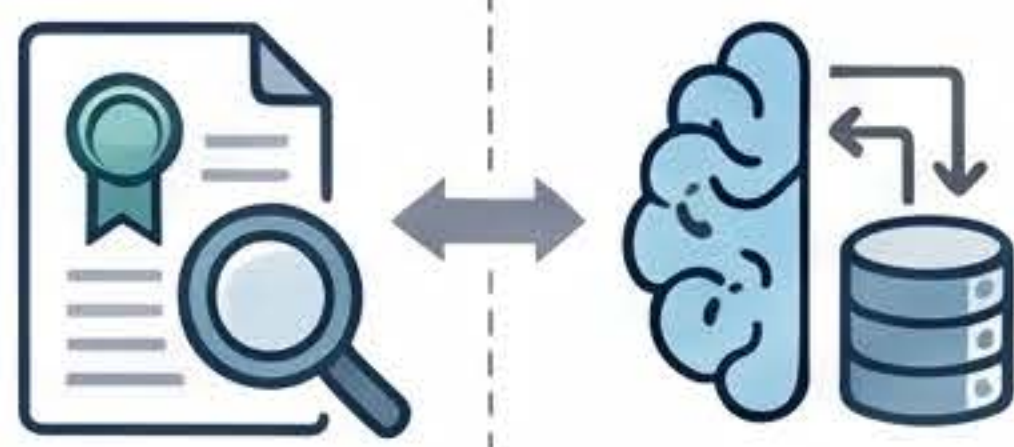


2025年 vs 2026年：FTO調査におけるAI活用の進化と実務の現在地

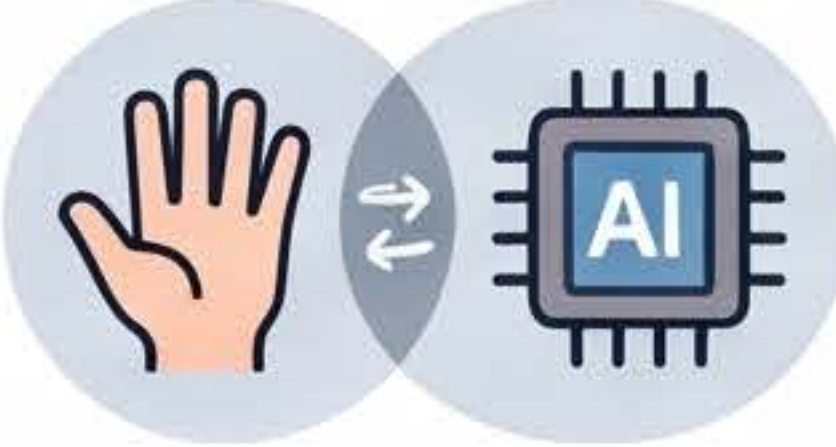
2025年：実験的導入

単なる「対比表作成」



公報と製品文書の単純比較。
ツール単体での利用。

人とAIの役割分担：未分化



観点設計・最終評価の
役割が曖昧。

技術の成熟度（2025）

比較の観点	2025年の状況
用途の明示	受託調査やAI対比の試行
システム連携	ツール単体での利用
評価の単位	公報と製品文書の単純比較

2026年：実用的な業務設計

判断根拠とプロセスの詳述



AIによる読解支援に加え、
結論に至った理由説明が具体化。

人とAIの役割分担：明確化

人：観点設計・検索戦略

AI：スクリーニング・抽出

人：最終評価

検索戦略や最終判断は人が担い、
スクリーニングや抽出をAIが担う構造。

技術の成熟度（2026の変化）

比較の観点	2026年の変化
用途の明示	FTO専用Agentや侵害予防リサーチの明示
システム連携	MCP連携やAPIによるDB接続の具体化
評価の単位	構成要件ごとの該当判断と不足情報の特定

90% 効率化（数値）と
「調査品質」の区別



作業時間の短縮は実証。
見落としゼロ（網羅性）
とは別評価が必要です。

FTO業務へのAI導入・比較における実務チェックリスト



検索の再現性と
「判断ログ」の保存
実行した検索式やAIの判断履
歴、人が修正した理由を残せる
かを確認。



「最短30分」に含まれる
業務範囲の精査
AI処理時間だけでなく、対象
定義から人のレビューまでの
総工費で比較。



不明点を「非該当」に
しない運用設計
仕様の欠落や翻訳の不確かさ
がある場合、追加確認に回す
仕組みが不可欠。